

# 平成20年度第3回三重県教育改革推進会議【議事録兼概要】

**I 日時** 平成20年5月9日(金) 14:00～16:40

**II 場所** プラザ洞津「高砂の間」

**III 出席者** 【委員】伊藤 博和、井上 邦子、上島 和久、大西 かおり、小笠原 まき子、加藤 正彦、川岡 加寿子、木本 博文、佐伯 富樹、田尾 友児、中野 義則、中村 武志、向井 弘光、山北 哲、山田 康彦  
【事務局】向井 正治、鎌田 敏明、真伏 利典、松坂 浩史、平野 正人生、増田 元彦、藤田 曜久、土性 孝充、土肥 稔治、中谷 文弘  
丹羽 毅、北原 まり子、中原 博、安田 政与志

以上29名敬称略

## IV 内容

### 1 挨拶

昨年度はさまざまな分野で熱心なご議論をいただき、感謝申し上げたい。学習指導要領の改訂に対しては、現場で円滑に進められるよう支援していきたい。教育振興基本計画も答申がなされ、今後具体的施策が打ち出されると考えている。本県においては次期教育振興ビジョンの検討を進めていく必要がある、どのようなものを盛り込んでいくか、広く県民の方のご意見をいただきながら進めていきたい。本日は2つの部会での報告をいただき、この会議として意見の方向性をとりまとめていきたい。今年度は三重の教育をどう進めていくか、具体的な施策等についても、意見交換していただきたい。

### 2 委員任命

### 3 報告

#### 第2回三重県教育改革推進会議の概要報告について

…資料1に基づき、中谷室長から説明

### 4 審議事項

#### (1) 「小中学校の適正規模について(報告)」について

…資料2に基づき、山田部会長から説明

### 《以下質疑応答》

#### 【委員】

小学校では1学年に1学級なければ、子どもにとっていい教育ができないのか。ハンディキャップになるのか。山間地や特色のある地域など、コミュニティと一体になった教育をする場合、特色を生かして残した方がいいのではないか。過疎地などで小学校をどうしたら残せるのか、という観点があったらいいと思う。地域の方や保護者の方が選ぶものであると思うが、小学校の適正規模にもう少し選択肢があってもいいと思う。

【部会長】

その点については、部会でも議論した。

地域づくりが大事だと思が、学校や教育委員会が取り組めることには限度がある。自治体全体で取り組んでもらえるよう、教育の側からも指摘したい。学校の適正規模といった場合、子どもたちが成長する最も理想的な規模は何なのか、という点から、本会議としての指針を出すとなると、やはり1学年1学級未満でも適正であるとは言えない。地域によって特色や現状があるので、なるべくそれに配慮するような点を記述した。

【委員】

なぜ中学校においては6ではなく9を下限としたか。どういう議論があったのか教えて欲しい。

【部会長】

小学校から中学校に進んだ場合に、いくつかの小学校が集まって中学校になることも含め、1学年あたりの学級数が小学校より増えるという視点が必要だという議論があった。

中学校は教科別の授業になっているので、教科ごとの専門の教員が適切に配置できるためには、9学級必要であるということもあり9学級とした。

【委員】

「この部会は、統廃合や生き残りのための方策を考える場とは考えていない」とあるが、この報告のどこにあるのか、教えて欲しい。学校を拠点として地域再生を考えている地域には、応援にもなるのかと思う。

子どもの登下校の安全確保が、保護者・地域・教職員の最大の関心事の一つであるが、この報告によって統廃合が進むと、かなり広い校区の学校も出現すると思うが、通学時間や子どもの通学の安全を保証するため、どのような地域共同体が必要かも盛り込むべきではないかと思うが、部会ではどのような議論がされたのか、教えて欲しい。

適正規模の議論なので、1学級の最大限の児童生徒数の議論がされたのであれば、聞かせて欲しい。

【部会長】

統廃合を進めることを目的とするのではなく、子どもたちの成長を何よりも考え、学校での教育活動の活力を維持向上させていくために何が重要かということ規模という観点から考え、指針とした。学校は地域の中で重要な役割を果たし、重要な存在であるという性格を持っているが、最終的には市町が判断すると考えている。部会では、市町が考えていく一つの指針を出せばという観点からまとめた。

登下校の問題については、現在バス通学をしている学校への訪問調査もした。全調査をしたわけではないが、子どもにとってそれほど負担になっていないという指摘がされている。登下校の条件を十分考えていく必要があることについては、12ページに県や市町の基本的な姿勢を示している。

1学級あたりの児童生徒数については、上限・下限については議論したが、最も適正な数については十分議論していない。

#### 【委員】

4 ページに「2 子どもたちの現状と教育課題」とあるが、ここに書いてある実態ばかりではない。子どもたちは日々一生懸命生きていることを知って欲しい。

1 ページに「積極的な支援策を講じる」とあるが、具体的にどのような支援や財源の面での支援があるのか、教えて欲しい。

1 1 ページ「大規模校の課題」については、訪問調査をしていないので、「考えられる」というような推定的な文言になっている。どういうところから実態や課題を取ってきたのか、教えて欲しい。

1 2 ページ「1 本県における学校適正規模の考え方」に、大規模校についての記述がない。1 5 ページ配慮事項の(2)を読むと、三重県内の適正規模を下回る全ての学校で、統合に向けた調査や活動が始まるのかと思う。本県としての適正規模を考えると、小規模校・大規模校ともによさも課題もあるので、子どもたちの教育環境の充実に向けた整備について、考えを進めて欲しい。適正規模外の学校についてすべきことは、統廃合や分離を検討することなのかと思う。下限・上限にこだわるのではなく、現状や課題から望ましい姿を議論すべきではないか。学校内の創意工夫や市町や県からの支援策について、議論することが先ではないかと思う。

#### 【部会長】

「積極的な支援策」については、推進会議として県の教育委員会に「積極的な支援策を講じることを期待する」という言葉を投げかけているという立場である。ただ現状は難しいということは理解している。

大規模校については、直接訪問していない。資料としては国で出されているもの、県内のいくつかの市で指摘されているものを活用した。委員の経験からの議論もなされた。

#### 【委員】

この報告は、いろいろなところに目を配って、うまくまとめてもらってあると思う。しかし現実的には、統合する学校で1 2 学級以上の規模になる学校はほとんどない。これがそのまま施策になるわけではないと理解しているが、統合を考えている学校としては難しくなるのではないかと思う。小さな規模の学校では、小回りが効くことを利用しているいろいろなことができる。その部分にも言及し、もう少し付け加えてはどうかと思う。

#### 【部会長】

学校訪問調査等で小規模校の努力や工夫については理解し、1 7 ページにも記述がある。しかしこの報告は小規模校の教育の支援をどうするか、というものではなく、適正規模という観点から指針を出すものなので、そういう部分は前面に出していない。

#### 【委員】

自分の地域の学校は適正規模を下回っているが、隣接校と統合を進めていくことも難しい状況にある。子どもたちの教育を考えていくと、適正規模設定の観点はよくまとめられていると思うが、実態として学校がなくなることを地域の方に受け入れて頂くのは、とても難しい。適正規模としてまとめると、こういうことになると思う。適正規模に満たないけれど、統合や合併が進まない地域に対して、どのような支援をしていけるのか。適正規模化を打ち出すと同時に、支援の施策を講じることを考えていく必要があると思う。

**【委員】**

少子化の進行から学校規模に問題が生じ、県として一つの方針が欲しいということから、部会が開催された。財政的なことよりも、子どもたちの視点に立って考えた。地域差があり、まとめるのは難しいが、今後市町が進めていくにあたって、県として何らかのものを示す必要があることから議論してきた。最終的には市町が決めることではあるが、県としてできることを話し合った。三重県なりの適正規模を作り上げたが、それでは多くの小中学校が該当しなくなるため、敢えて次の段階のことを示した。それでもできないところについては、地域の実態を把握した上で進めていくことが大事であり、地域の方と十分コンセンサスを図ること、市町や県の教育委員会が、条件整備の支援をしていくことなどを配慮事項にまとめた。大規模校については、まとめていく段階で途中から議論し、大規模校を経験された委員の意見や、資料を取り寄せながらまとめた。最終的には市町の教育委員会が考える時に、県としての指針は大事だと思っている。

**【会長】**

みなさんからいただいたご意見等を、部会長の山田委員と私と事務局の方で最終まとめとして完成させたい。公表前には、各委員の方々に何らかの形で確認していただけるような方法をとりたい。最終まとめは、この会議の名前で県の教育委員会に報告したい。

**【委員】**

最終まとめを見て、再度部会や会議を開く必要があるということがあれば、事務局なり会長に伝えるということも可能か。

**【会長】**

可能である。

**【委員】**

これは、小中学校適正規模のあり方部会か、三重県教育改革推進会議か、どちらのものとして報告ということになるのか。これまでは部会での議論の報告だったものが、今日この場に出されて推進会議の報告となるのか。

**【会長】**

すでに過去の会議で経過等も報告され、意見もいただいているので、最終的には三重県教育改革推進会議の報告ということになる。

**(2) 三重県における今後の特別支援教育のあり方について**

…資料3に基づき、加藤部会長から説明

**《以下質疑応答》**

**【委員】**

県立特別支援学校整備第一次実施計画に、伊賀地域が入っていない。地域ごとに課題を挙げるのであれば、伊賀地域も挙げて欲しい。議論されたのか聞きたい。

**【事務局】**

第一次実施計画は、19年度から22年度までの4年間の具体的な計画を示すものであり、伊賀地域の課題は把握しているが、具体的な施策について記述するまでにはいかないということで、記載しなかった。

**【副教育長】**

伊賀地域の伊賀つばさ学園は、できた時点で知的障がいと肢体不自由の子どもを受け入れる体制ができています。複数の障がいを受け入れるという観点からすると問題がなく、議論が少なくなっている。ただ、児童生徒の増加や寄宿舍がないという問題については、今後も議論していかなければならない。

**【委員】**

難聴、あるいは弱視の子どもに関しては、盲学校・聾学校への通学が難しい上に通級学級の認定も難しいなど、伊賀地区にも問題はある。このような課題に関して県として考えていることが分かるように、実施計画に記述して欲しい。伊賀地区内でも通学に時間がかかるので、県立学校の統廃合と係わって、2校目の設置検討を挙げて欲しい。特別支援教育の本格的実施に伴い、コーディネーターに対する取組指導、特別支援学級や普通学級の中での配慮等について、本格的に考えて欲しい。

**【部会長】**

部会長としても、この計画が実行されなければ意味がないと思っている。部会で意見は十分聞いてもらったが、是非今後の特別支援教育に生かして欲しいと思う。検討したことがどうなっているのか、はっきりと検証できるような場を、是非設けて欲しいと思う。

**【委員】**

松坂多気地区の通学時間に関して、一次計画の中では「運行経路と増便が検討される」となっているが、「小規模な学校を複数設けて通いやすいような体制を整える」という方策は検討されたのか。

**【部会長】**

なかなか解決しづらいということもあり、そういうことは検討していない。玉城わかば学園の高等部の生徒増加に対して、充実させていくことを検討した。

**【事務局】**

小さい施設をたくさん作っていくとなると、施設・職員など、非常に難しい問題があることと、専門性が失われていくという問題がある。玉城わかば学園にも検討課題が残っているので、二次実施計画にかけて、しっかり検討していきたい。

**【委員】**

東紀州くろしお学園の本校が2ヶ所に分かっているとあるが、どういうことか説明して欲しい。

**【事務局】**

東紀州くろしお学園の本校は、有馬小学校に小学部と中学部があり、木本小学校に高等部があり、2ヶ所に分かっている。さらに尾鷲小学校に尾鷲分校があり、変則的な形になっている

**【委員】**

尾鷲分校は尾鷲工業の旧校舎を改修して移転することから問題はないが、木本小学校の保護者から、事故等あったら大変なので、なるべく早く別々の形で設置して欲しいという要望がある。本校も独立した形で検討して欲しい。

**【部会長】**

住民の請願という形、あるいは地元の議員の請願という形で、県に出していただきたい。

**【委員】**

6者懇、その中には東紀州くろしお学園PTA会長さんも入ってもらって、要望書をずっと出してきているので、検討をお願いしたい。

**【副教育長】**

ご要望は十分聞かせていただいている。緊急な課題への対応が、まずこの4年間の1次計画であり、道路網も整備されるということも聞いていることから、議論が少なくなっている。問題があることは承知しているので、もうしばらく待っていただきたい。

**【委員】**

高等部を希望する保護者や子どもが増加している。その背景なり、原因なりをどの程度調べ、把握しているのか聞きたい。資料2ページに「卒業後の進路や就労につながるような福祉、労働等の諸機関が連携して支援する必要がある。」とあるが、部局横断的な議論も必要だろうし、市町の教育委員会や市町への支援ということも必要だと思う。パイロット的にやっている地域があれば、教えて欲しい。高等学校での特別支援教育の現状はどうなっているのか。把握していたら教えて欲しい。

**【部会長】**

中学校だけで卒業したのでは、自立して社会の中へ入っていくことが難しいので、高等部への進学を希望するのではないかと思う。

**【事務局】**

どうして知的障がいの子どものが増えているのか、全国的な傾向であるが、文部科学省でもはっきりした理由を出していないし、いろいろ研究もしたが原因は分からない。高等部への希望が増えているのは、「自立できるような教育を受けてから社会に出て行きたい」という保護者の希望があると思っている。亀山市やいなべ市は、幼稚園から小中高まで情報を引き継ぎながら、福祉・教育・労働が情報交換しながら、先進的にやっている。高等学校での特別支援教育については、教員に手引きみたいなものを配布し、目を向けて欲しいと考えている。

**【委員】**

中学校から特別支援学校の高等部を希望された保護者の方々に、その動機や中学校の時の教育についての感想を聞いて欲しい。きつい結果が出てくると思うが、本県の特別支援教育のあり方も見えてくるのではないかと思う。

**【会長】**

みなさんからいただいたご要望の中には、いくつか強いものがあった。その点については、整備第二次実施計画の方に可能な限り組み込んで欲しいし、この推進会議でも機会があれば議論を交わしたいと考えている。

**【委員】**

特別支援教育のボーダーの子どもが非常に増えている。その子どもたちにどのように指導していったらいいのかも、ここで扱っていただきたい。

**【委員】**

特別支援学校の整備計画は大変大事だと思っているが、一方で小中学校の特別支援教育は、なかなか進んでいない。県としてリーダーシップを発揮するなり、小中学校における特別支援教育を分けた形で議論するなりして、引き続き議論していただきたい。保護者としては、地元の学校で就学させたいという思いがある一方で、専門的なケアなり指導も受けたいという思いがあり、大変難しい。学校現場の要望を聞いてもらいながら、どうやっていったら三重県版の特別支援教育が充実できるかを、議論する場が必要ではないかと思っている。

**【委員】**

一瞬一瞬子どもに対応すること全てが、特別支援教育である。教員に必要なのは、教育技術を伸ばしたい、専門性を伸ばしたいと思う向上心や、その日その時適切な確に子どもに対応できる姿勢ではないかと思っている。難しい支援ではなく、日々子どもとともに過ごしている教員が、元気にやる気を持てる支援をお願いしたい。

**【会長】**

特別支援部会に関しては、まとめが完成した時点で審議終了となる。今回各委員からいただいた要望を、整備第二次実施計画に反映させるためには、この会議においても、検討する機会を設ける必要があると思っている。

5意見交換（1）に関しては、時間の関係上省略し、（2）今後のスケジュールについて、事務局からお願いします。

**5 意見交換**

（2） 今後のスケジュールについて…資料4・5・6に基づき、中谷室長から説明

**【会長】**

今後の審議テーマについては、会長、副会長、事務局で決めさせていただき、次回会議に提案したい。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

**6 その他**

**連絡事項**

机上有る日程調整用紙の提出をお願いします。次回会議は調整の後、改めて連絡させていただきます。

以上